

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000058		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	江別ケアパーク そよ風 (しらかば)		
所在地	江別市1条3丁目12番地の2		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年6月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191000058&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ バランスを考えた食事の提供。 ・ ボランティアの受け入れ状況。 ・ 月2回のユニット合同レクでの職員の出し物を披露し、入居者様に楽しんで頂いている。 ・ 体調不良時等の素早い往診、受診の対応。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設が平成19年12月と間もないことから、利用者、家族のニーズに応える体制作りが急がれ、管理者を中心に精力的に取り組んでいます。一部に運営者と現場の乖離がみられ、現場の建議が滞りも見られますが、地域密着型サービスへの追及が継続されています。そのような中、職員の利用者への支援は、細やかな気配りを見ることが出来ます。魅力ある食事作り、利用者一人ひとりへの優しい言葉掛けなど、利用者本位の支援が続けられています。現在、ホームでは終末期への支援体制作りを計画しており、ターミナルケアに向けた環境を、ハードとソフトの両面にわたり検討が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関、エレベーターの中に掲示している。事務所の中にも掲示し、朝礼時に復唱している。	前回評価での取り組み項目であり、企業理念とは別にホームとして、地域との交流を盛り込んだ独自の理念が作られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりを持つ努力はしている。年1度の施設でのお祭りには、自治会の方にも来て頂いている。	年1度開催の施設祭りには、近隣住民の方々の参加や地域の行事に参加するなど、交流の深まりを見せています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護勉強会、施設の見学をして頂き、わかりやすく説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている家族の方、地域の方の意見、質問の意味をしっかりと考えて取り組んでいる。	会議の開催案内及び結果は、全家族へ周知していますが、家族の出席が少なく、また、職員の異動などの理由により、開催も3回にとどまっています。	最近、職員体制が出来上がりつつあり、運営推進会議の意義を理解し、効率的な定期開催への取り組みが望まれます。また、評価での結果を会議で公表しながら、改善に向けた取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、密に連絡を取り、報告等を行っている。	市の担当課とは、運営に関する指摘や指導を真摯に受け止めながら、質の向上に向けた連携が図れるよう努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開所以来行っていない。	管理者と職員は、身体拘束をしないケアの重要性を熟知しているものの、ユニット毎の自動ドアの施錠、また、エレベーターのスイッチも暗号式の開閉など、明らかな拘束事案が視えます。	市での検査でも指摘されていますが、改善に向けた工事への負担などで取り組みが進まない状況にあります。施錠への早期の改善着手と共に、リスクマネジメントを先行するのではなく、職員全ての見守りによる鍵をかけないケアの実践を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月1回勉強会を行い、各職員へ報告し行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内や管理者が研修に参加し、職員へ報告している。 必要な入居者様には、支援を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、不安、疑問点を解消し、理解、納得を得てから契約をしている。また、その都度、疑問、不安点等には返答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を行っており、日々の生活において、入居者様、ご家族からの意見、要望の対応は行っている。	ホームの状況を知らせるユニット便りも定期的な発行が遅れ気味です。また、エントランスに設置の意見箱の利用による家族の意見集約も十分ではありません。	運営推進会議での意見にとどまることなく、平素から、家族の意見や要望が行き交う関係構築が望まれます。意見箱も、どのようにしたら家族にとって利用可能かの検討、工夫が必要であり、その取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なユニット会議の実施を行っている。また、緊急でのユニット会議を行い、職員の意見を聞く機会を設け、意見や提案を反映させている。職員間での連絡ノートを活用している。	運営に関する職員等の意見や要望は、管理者が取りまとめ運営者に伝えていますが、運営に反映するには、組織的に時間が掛かりすぎる傾向にあるようです。	全国レベルで総合福祉施設を展開している運営者は、末端の現場運営に、もう少し敏感かつ丁寧な関心が必要と思慮します。利用者の真の豊かな暮らしの継続への貢献は、現場での職員の意見が重要であることの認識を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の力量にあった勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるような職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、職員一人一人の力量を把握し、その職員にあった研修を受け、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の見学受け入れを積極的に行っている。また、北海道グループホーム協会の研修にも参加し、他の市町村との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望、要望に耳を傾け、何度も話しをさせて頂き、安心、納得される様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居後、契約時等不安な事を確認し、説明、納得するまで耳を傾け、密な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じた、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅に居る様な生活を心がけ、職員と一緒に出来る事を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見を常に念頭に置き、ご家族と一緒に支えていける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方、友人の方が気軽に来られる様に支援している。また、馴染みのある場所にも行く事もある。	近所の知人の来訪もあり、職員は歓迎して支援しています。また、通院を利用して前の住居近くを回り、馴染みの場所への支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に楽しく過ごす時間を多く取り、リビングで過ごす時間を持って頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、サービスが終了しても、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、本人の思い、生活の希望を把握し、その都度検討している。	職員は、利用者の些細な表情や言動を大切に観察しながら、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の確認を行い、本人、家族に確認をし、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録の中から、アセスメントを行い、生活状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見も取り入れ、介護計画を作成している。	利用者への日常の介護記録に詳細に記されていますが、介護計画との連動性に欠けています。また、家族への説明と話し合いが十分ではありません。	全職員によるモニタリングが日々行われていますが、介護記録も計画に基づいたモニタリング及び経過の記録が望まれます。計画作成者の育成とチームで作る介護計画、また、家族の参加への取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、排泄状況、食事の様子、血圧等の個人の様子が解るように記録し、全職員が解るように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の意見を取り入れ、柔軟に、多機能にわたって取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がしたい様な生活、暮らしたい様な生活を行える様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を行っている。また、往診の他に受診などの対応を行い、適切な医療を受けれる様に支援している。	ホームの協力医のほか、従来からのかかりつけ医への受診支援をしています。協力医による月2回の往診もあり、利用者の健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきに対して、管理者に伝え相談し、個々の入居者さまが適切な受診を受けれる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、安心して治療が出来る様に、また、早期に退院出来る様に、病院関係者と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期の在り方について、早期に家族と話し合いを持ち、事業所で出来る事を十分に説明し、方針を共有している。	ホームとしての成文化された方針がなく、家族へは口頭で伝えるにとどまっています。現在、ターミナルケアへの体制作りが予定されています。	ターミナルケアへの構想は、居室の改造及び家族対応など、進められていますが、ホームとしての方針作りと家族への周知と確認、更に職員への十分なスキルの習得及び共有が重要と思われる、それらの取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備えて、実践力を身につける様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震等の災害に備えて、昼夜を問わず避難出来る様に、定期的に避難訓練をしている。	複合施設と共同の火災避難訓練が実施されていますが、ドアなどの施錠、また、地域との協力体制は十分とはいえません。	お年寄りが多く居住している複合施設ですが、ホームの利用者は心身のハンディキャップを有しており、十分な配慮が肝要と思慮します。地域住民の方々の協力を得るためのマニュアル作りも大切で、その取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を常に心がけている。	職員の優しい言葉掛けと対応による支援が随所で見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が、言葉や行動で表す事が出来ない思いを表現出来る様に、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを尊重し、その日その日が楽しく、本人のペースに沿った生活が出来る様に、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と共に、日常で着られる服を選んで着て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べ物の好みを把握し、献立作りをしている。入居者様と共に片付けを行っている。	職員の献立による彩の良い食事が提供されています。職員も一緒に食卓に着き、楽しい食事の雰囲気を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人のその日の状態により、食事量、水分量を調整して、バランス良く提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、義歯の消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が、自立されていない方に対しては、時間を決めて、トイレ誘導を行っている。	排泄のパターンを把握しながら、出来るだけトイレでの自力排泄を支援しています。以前と比較し、オムツ使用の減少も成果として現れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操、散歩等を行っている。食物繊維の多い献立を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日その日の体調の状態を把握しつつ、本人の希望に沿って、行っており、曜日、時間は決めていない。	体調を考慮し、希望に沿った入浴の支援が行われています。現在、夜間の入浴はありませんが、希望があれば支援する方針です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調を把握し、臥床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の目的、副作用、用法について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや掃除等、自分で出来る事は手伝って頂き、レクリエーション等でゲームを行い、気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段行かない様な場所を把握し、入居者様の希望に沿って、毎月、定期的に外出行事を行っている。	夏季の場合は、日常的な散歩、外出によるストレスの解消に努めています。冬季間は、隣接の施設訪問により閉じこもりの解消を心がけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様全員分、事務所で預かってはいるが、買い物などの際は、使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たり、手紙が来る事が少ないが、年賀状などを書いてもらう様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が入居者様にとって、快適な場になる様に、消臭、清掃を行い、花や装飾等に心配りをしている。	居間と食堂はゆったりとした空間を持ち、利用者の安定した暮らしの継続に貢献しています。大きな窓からは、眼下を通過するJRの鉄路を眺めることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやソファ等に座り、一緒にテレビを見たり、一人で読書をしたりと自由に過ごされる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者様が常日頃、愛用されていた家具、趣味活動等の物を家族と相談して、お持ちして頂いている。	使い慣れた家具や調度品が沢山持ち込まれた、安心の居室がある反面、やや寂しく感じる居室が見られます。	利用者の状況により、色々な理由もあるようですが、家族への説明を重ねながら、毎日の暮らしの中、温かみのある安心の居室作りへの取り組みを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など手すりを設置し、ご自分で出来る事を安全に、自立した生活が工夫出来る様に工夫している。		